

研究・調査報告書

報告書番号	担当
366	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, cigarette smoking and risk of subtypes of oesophageal and gastric cancer: a prospective cohort study. 飲酒、喫煙と食道および胃癌の亜型のリスク： 前向きコホート研究より	
執筆者	
Steevens J, Schouten LJ, Goldbohm RA, van den Brandt PA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Gut. 2010;59(1):39-48.	
キーワード	
飲酒、喫煙、食道がん、胃がん	
要旨	
目的： 飲酒と喫煙はそれぞれ別々に食道扁平上皮癌 OSCC、食道腺癌 OAC、胃噴門部腺癌 GCA、および胃非噴門部腺癌 GNCA と関連があるかもしれない。しかし、これらは後ろ向き試験が根拠となっており、これらの仮説を前向き試験により分析を行った。	
方法： The prospective Netherlands Cohort Study は 1986 年ベースライン時の食事、他の癌リスク因子についての調査票を完全に揃えた 120852 人の対象者から成り立っている。16.3 年のフォローアップ後、OSCC107 例、OAC145 例、GCA164 例、および GNCA491 例が Cox 比例ハザードモデルおよびケースコホートアプローチを用いた分析に利用可能であった。	
結果： 多変量調整後の罹患率比 RR は、OSCC において非飲酒者に比べてエタノール 30g/日以上の飲酒により 4.61 (95%信頼区間 2.24 から 9.50) であったが (傾向 P 0.001 未満)、一方 OAC、GCA、また GNCA ではアルコールとの関連は見られなかった。非喫煙者と比べて喫煙者における RR は、GCA で 1.60 から OSCC で 2.63 と様々であり、またこれらの RR は統計学的に有意または境界線上の統計学的有意であった。喫煙における頻度、期間、および箱年数は 4 つすべての癌リスクと独立して関連があった。OSCC リスクについて、飲酒と喫煙状況の間に正の交互作用が見られた。15g/日以上の飲酒をする喫煙者は、非喫煙者で 5g/日未満の飲酒しかしらない人に比べて、RR は 8.05 (95%信頼区間 3.89 から 16.60; 交互作用 P= 0.65) であった。	
結論： この前向き試験より、飲酒は OSCC のみのリスク増加と関連していた。喫煙は 4 つ全ての癌のリスクと関連があった。	